

令和6年度 第4回港区男女平等参画推進会議

議事概要

日時：令和6年7月11日（木） 10：00～10：45

場所：港区役所9階 911会議室

出席者：

- （学識経験者） 齋藤会長、新田副会長、藤間委員、
- （関連団体代表） 林委員、尾崎委員、門脇委員、野中委員、白井委員、遠山委員
- （公募区民） 小川委員、川元委員、幸田委員、深田委員、福島委員

- （事務局） 清家区長、湯川総務部長、小坂人権・男女平等参画担当課長、
大久保人権・男女平等参画係長、田中人権・男女平等参画係

1 開会

— 齋藤会長により議事進行 —

2 議事

(1) 第4次港区男女平等参画行動計画（令和3年度～8年度）令和5年度事業実績の評価について（答申）

齋藤会長から清家区長に答申書が手交され、齋藤会長が答申内容について説明をした。

（齋藤会長）

各事業は、2つの部会において、担当課職員から詳細な説明を受けた上で、議論し評価を行った。その結果を港区男女平等参画推進会議として答申にまとめた。

事業評価結果は、責任項目8項目のうち「ほぼ達成」が5項目、「おおむね達成」が1項目、「達成なかば」が2項目で、「不十分で課題がある」、「不十分で課題が多い」「未実施」はなかった。責任項目に紐づく25事業のうち「ほぼ達成」が13事業、「おおむね達成」が10事業、「達成なかば」が2事業だった。「おおむね達成」であった事業は「ほぼ達成」を、「達成なかば」であった事業は「おおむね達成」を目指し、評価理由を踏まえて事業を進めるよう期待する。また、「ほぼ達成」の評価であっても、評価理由に要望が記載されている場合には、次年度に取り組んで欲しい。

「達成なかば」であると評価した2つの責任項目は、「審議会等委員の女性参画の推進」、「地域防災組織・防災訓練への女性の参画促進」。審議会は重要な政策方針の決定過程であり、女性の参画を増やして行くことは必須である。審議会委員を募集する際に、女性参画をアピールするような工夫をするなど、長期的に取り組んで欲しい。男女平等参画推進会議は、女性の委員が多いが、他の審議会にも同じように女性に参画してもらえるように取り組んで欲しい。防災に関しては、昨今の災害リスクを踏まえた議論が展開された。避難所の環境や運営については、区民にとって非常に関心の高いトピックだが、避難所において男女の役割分担が固定化される懸念があるため、計画や訓練段階から男女平等参画の視点を取り込んで欲しい。

この推進会議では、真摯に事業を検討して多くの質問をする各委員、それに答える担当課の姿勢それぞれ本当に素晴らしいといつも感心している。各委員は単に意見をぶつけるだけではなく、どのようにしたらより良い港区になるかを共に考えており、担当課もそれをきちんと受け止め、改善の道を探っている。各委員には、長い期間男女平等参画事業について真剣に考えてもらったことにお礼を申し上げる。

（清家区長）

今回の答申では、8つの責任項目と各事業について、事業実績の評価と、評価理由を具体的に挙げていただいた。この審議会は活発な議論がなされていると以前から聞いており、会長からもお話があったとおり、本当に真摯に港区の男女平等参画について議論していただいたことに感謝する。6月28日から港区長に就任したが、区長選挙では、5つのビジョンの1つとして「確実に命を守るリアル防災都市」を掲げ、また、管理職や審議会等委員の女性割合を50%とすることを、公約として掲げてきた。今後、この度の評価において「達成なかば」とされた、責任項目2の「審

議会等委員への女性参画拡大」や、責任項目3「防災分野における男女平等参画推進」をはじめ、評価結果を全庁で共有し、第4次男女平等参画行動計画に基づく施策をより一層推進する。

6月6日の諮問から約1か月という大変短い期間にもかかわらず、答申をいただいたことに、改めてお礼を申し上げます。

続いて、各委員が感想を述べた。

(新田副会長)

約4年ぶりに推進会議に参画したが、この間、男女平等参画の分野は大きく進展したと感じる。

今回、第1作業部会では、主に企業における男女平等、介護に関する男女平等という視点から協議をした。各委員の意識が高く、本当に良く学んで考えていて、とても良い議論ができ、担当課へ質問することで理解が深まった。多少厳しいことも申し上げたが、それは期待をしているからとお受け取りいただきたい。

(藤間委員)

第2作業部会でも、各委員から忌憚なく重要な意見をいただき、担当課も今後の課題を考える上で参考になったと思う。施策は、きちんと区民のニーズに応え、効果検証をして次につなげることが非常に重要。推進会議で、様々な貴重なご意見をもらえたことは、将来の港区にとっても非常に重要なこと。是非、今後もこの取組を続けて欲しい。

(林委員)

普段は、民生委員・児童委員として主に高齢者の支援に関する活動をしている。民生委員・児童委員でも様々なテーマで研修会をしているが、推進会議では男女平等参画という、普段とは異なる視点で沢山考えるきっかけをいただいた。

(尾崎委員)

教育の立場から6年間参画し、第4次男女平等参画行動計画の策定やコロナ禍における書面会議も経験した。多様な立場の様々な意見から沢山学ばせていただいた。各委員や担当課が熱心に、真摯に課題解決に取り組んでいる姿がありがたく素晴らしいといつも感じていた。担当課からの資料も当初に比べて大変分かりやすくなり、説明も分かりやすく評価しやすくなった。更に具体的な目標設定や具体的な方策、結果の検証を期待する。

(門脇委員)

コロナ期を経てかなりの注文をした。評価シートの改訂、担当課へのヒアリングの実施により、評価が本当にやりやすくなり感謝の一言。ただ2つ課題があり、まず事業目標に合理的な数値目標・内容を設定した方が良いということ。そして、担当課が複数にまたがる時にはきちんと連携をした方が成果に繋がるのではないかとということ。

コロナ期によく区のホームページを閲覧していたが、必要としている情報の入手しやすさ・分かりやすさという部分が非常に弱いし、更新も遅い点が課題かと思う。また、審議会等の女性参画拡大は国の一番の課題でもあるため、是非港区で率先して進めていただきたい。

(幸田委員)

2年間大変勉強になった。失礼ながら言いたいことを言わせていただいた。

昨年度の評価の際に、翌年度（5年度）の事業目標設定に対して私たちが提案したことが、今回の「令和5年度の事業目標」にも「次年度の事業目標」にも反映されていないと感じた。目標設定時に、数量目標に限らず定性目標でも良いのできっちり立てて、具体的にどのように実行するのかを行動計画の事業目標に落とし込むことができれば、あとは1年間やっていく中で出来た・出来なかったの振り返り、出来なかった部分はこう修正しましたという振り返りができる。最初の目標設定がすごく大事だが、2年間の中ではうまく回っていなかったと感じる。

また、部会における担当課の説明は、複数課にまたがる事業について、自分の部署だけでなく、他部署や全体についても具体的に説明できる方に出席願いたい。

今後も港区のためにと思いながら、勉強を続けて関わっていききたい。

(野中委員)

国の人権教育啓発推進センターにおいて、主に人権啓発に関する事業を展開している。6年前から推進会議に関わってきたが、年々良くなっていると感じる。各事業目標を実施する部署に温度差があり、目標の設定を高くしたために評価が低くなってしまふ事業がある一方で、逆に目標が低いことで評価が高くなる事業も見受けられた。リーブラは前年に提案されたことをほぼ着実に実施している。他の部署もリーブラと同様に事業展開をすると、より良くなるのではないかという印象を受けた。

(臼井委員)

港区の数ある審議会の中でも、この推進会議は女性が多く、また活性化している。各委員が本当に勉強していて、建設的な意見を交わし、他では見られない活発さがあり素晴らしい会議だと思う。自ら事業を営んでスタッフを雇用している身でもあり、推進会議を通して私自身も評価されていると感じる部分もあって大変勉強になった。

(川元委員)

所属する企業ではダイバーシティ&インクルージョンの推進をしており、女性活躍推進や育休取得の推進などを行っている。企業内よりも幅広く多様な人がいる港区で、より広い課題分野のある行政の会議に関わることができて、学びになった。企業での自分の知見を活かすことができ、ここで得た知見を企業に持ち帰って活かしたいとも思う。区やリーブラの職員も、本当に素晴らしく努力もされていると思う。

だからこそ目標の持ち方が重要で、中長期の目標と各年度の目標がマッチしていなかったり、取組の方向がずれてしまうと、せっかくの努力が実を結ばなくなることもあると思う。高いビジョンを持っている港区の施策を生かすのは区長のリーダーシップだと思うので、今後に期待している。港区だからこそできる先進的な施策が今後も多く出てきてそれが実現され、東京を、そして日本を引っ張ることを期待している。

(小川委員)

男女雇用機会均等法成立の頃に区内に生まれ、男女平等参画が良くなっていく時代を生きてきたと自覚している。港区はマンションがすごく増える中、新しい住民が、防災などにおける区や

地域の取組に参加していないように感じる。リーブラが婦人会館だった頃から活動している知人がおり、そういう人達を軸に新しい住民も巻き込んでいけたらと思っている。

リーブラをはじめ区の施設は多くが指定管理者による運営に移行していることで区の職員の専門性が育たず、また部署のローテーションにより数年で異動してしまうことが多い。区の職員配置・人事異動の仕組みを改善できればとても良くなると思う。また、防災のような、地域に直接関係する分野で男女平等の推進が難しくなっている課題の解決をやっていただけたらと思います。

(遠山委員)

企業の人事部において育児休業や働き方のサポートを担当している。目標設定については、他の委員の指摘のとおり。その他に、非常に印象に残っているのが、評価を「達成なかば」とした責任項目「防災分野における男女平等参画の推進」。区は物資の調達や配分について工夫して実施していることが分かったが、例えば防災訓練やイベント的なものを一緒にやる町会・自治会や商店街を長年仕切っているのは高齢の男性が中心。地域に根付いていて、カルチャーといえる良い面もあるが、地域には必ず女性もいる。男性中心の地域社会を変えて行かないと先細りになるのだということをみんなで気持ちよく理解できると良い。

(深田委員)

普段は企業に対してダイバーシティ推進のコンサルティングをしている。自分の居住区での取組が分かり、各委員と意見交換することもできて大変勉強になった。こういう会議は形式的に過ぎていくものなのかと思っていたが、私たちの声にこたえようとする区の姿勢に感動した。

課同士の連携は去年よりもよくなっており、評価シートも明らかに見やすく改善されている。区の推進会議に対する姿勢がよく見られて良かった。目標の設定については、抽象度の高い目標を設定していて、一見するとコピー&ペーストと思われる事業も一部あった。部会において、担当課に質問すれば具体的に分かるという状況であったものの、目標設定はもう少し具体性を持たせるよう期待している。

加えて、やること自体が目的にならないように気を付けなければならない。具体的には、イベントを開催する際に内容の質は高まっているものの、参加人数でいうと実は十数名・十数社であるなど、インパクトに欠ける点が散見された。インパクトとしてどうかという視点を含めて、これからの施策に期待したい。

(福島委員)

港区における男女平等参画推進の動きは年々間違いなく進化していると思う。

具体的には、令和5年度の事業実績として、リーブラにおいて「女性管理職養成講座」として女性のキャリアプラン・キャリアパスを具体的に考える講座を実施している。女性にとって、これから自分がどのようにキャリアを積んでいくのか、その道筋を考えることは非常に有意義であると思う。

また、令和4年度までは介護人材の確保に関する事業において、介護職員を対象としていた研修費用助成について、令和5年度は在宅サービスを支えるケアマネジャーの資格取得・更新に必要な研修まで拡大することによって、介護人材の確保や育成に努めたとあります。ケアマネジャーは絶対的に数が不足しており、ケアマネジャーまで拡大した研修の実施は非常に理にかなった措置であり、区民の仕事と介護の両立につながることから、大いに評価されるべきものであると

思う。

全体としては、第三者が評価しやすいように、前年度との数値による比較が可能な事業については表現に工夫をして欲しい。私自身大変勉強になった。これからも港区の男女平等参画推進事業の発展を見守っていききたい。

(清家区長)

只今、皆様からの的確なご指摘をいただいた。どれも喫緊の課題だと捉えている。いただいた貴重なご意見をしっかりと受け止めて施策を進めていく。

本日が、皆様に委嘱した、第10期男女平等参画推進会議の任期における最後の会議となる。この2年間の皆様の多大なるご尽力に、改めて感謝を申し上げます。今後とも、港区政への変わらぬご協力、ご支援をいただきたい。

(2) その他

(小坂人権・男女平等参画担当課長)

今回ご審議いただいた評価内容について、8月発行の「港区の平和・人権・男女平等参画 事業概要」に年次報告書として掲載する。また、今回の答申と各委員からのご意見について、各課に速やかに共有する。

3 閉会

～ 以上 ～